

ふきのとう 文庫だより

昭和48年1月13日第三種郵便物承認

HSK通巻番号568号

発行 令和元年7月10日

毎月10日発行 一部100円

編集 〒060-0006

札幌市中央区北6条西12丁目8番3

公益財団法人ふきのとう文庫

電話 (011) 222-4839

FAX (011) 222-4800

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会

細川久美子

新築移転後五年を経た「ふきのとう文庫活動の近況報告」

公益財団法人ふきのとう文庫 代表理事 高 倉 嗣 昌

新築移転して五年、「ふきのとう文庫」の活動は多くのボランティアの方々の手によって、きっちりと継続されておりまして。

そうした流れの中で、アクセントとも言える三つの動きについて御報告させていただきます。

一 財団の「役員」改選

二〇一九年五月で、評議員と監事は四年、理事は二年の任期が切れ、改選期を迎えました。

今回の改選も、異動は最小限に留める方針を執り、一部評議員の退任、新任があった以外ほぼ全員重任となりました。

評議員につきましては退任として、長年当文庫で中心的活動をして下さっていた林孝子さん、新任で隣接する高倉が所有する土地と塀などがなく、高倉旧宅の一部は倉庫として、旧宅と関連する土地はボランティア駐車場として、無償の使用契約になっており、代表理事の私に万が一のことがあった場合、それがスムーズに移行できよう、身内から「役員」をだしては・・・との意見があり、札幌在住の私の娘婿青山誠を選んで推薦としたことです。

本人は理学療法士として活躍中で、医療界との繋がりも重視しました。

ただ、私と阿久津業務執行理事は既に八十才を超えて日常業務が過重になって来ていることから、二年後には理事の大巾な交代を実現せねばならず、早急な準備が必要です。

二 今後の活動に直結する「来館者」の動向分析

新築移転事業の際、「林業促進」、「道産材活用」を進めるため補助金を申請し、それが認められて四千万円超える補助を国からもらうことができました。

その際、対費用効果の観点から、五ヶ年にわたる右肩上りの「入館者数」増加計画を提出したことは既に再三ご報告させていただきました。

五年を経て幸い一定の入館者数を確保できたため、

条件はクリアーできて、「目標値」という「縛り」から解放されたと受け留めております（まだ「検査」の通知がきておりませんので）。

これまではボランティアも幼児も含めて、馬車馬のように「入館者」の増加を追求してまいりましたが、「入館者」を新たな視点で捉え直し、活動に結び付けていくことが必須の課題となつてまいりました。

図書貸出の登録者数、貸出冊数こそどんどん増えて来ておりますが、ボランティアを除く「入館者数」は大きく伸びていないと言えない状態です。

当図書館を利用するために足を運んで下さる方々の人数は把握できても、その地域的範疇まで詳しく記入していただいてはいるわけではありませんので、入館者署名用紙の改訂も必要でしょう。そして何よりもリーダーがどのくらい居るのが大変大切な要因です。

又、当図書館は布の本、拡大写本を含め一定条件の下で、貸出の全国展開をしておりますが、その地域的分布なども把握が不十分です。

これらは、図書館活動の基礎を成すものであり、今後把握と分析を進めて行かねばなりません。

三 発足五十周年記念事業

当文庫は来年で五十周年を迎えます。

先日 の運営会議でその取り組みが議論されました。

当文庫の歴史を綴る「五十周年記念誌」の発刊は必須ですが、丁度五十周年に合わす必要がなく、じっくり進めて行く方向です。

外部の方々を多く招いての式典祝賀会までは現段階では手が廻らないのではないかとこの意見が大勢です。これはPRにもなることですので継続的な検討課題です。

最も力を入れるべきは多目的ホールを使つての展示会です。

展示内容を充実させて、二週間ほど開催する予定で具体化を進めていることです。

平成三十年度事業・決算報告

決算報告

本年は期初早々大口の寄付金が二口、合計二百万円
の幸運に恵まれ、期中を通して安定した収入活動
が出来ました。

事業部門については、今年度も順調に活動を継続
し、図書部門、布の本部門、拡大写本部門とも充分
な成果を上げました。

収支決算は、収入が目標を大幅に超え、支出は逆
に期初予算を四〇万円程下回った為、大幅な利益を
計上することになりました。

固定資産の減価償却費が大きな数字なので、正味
財産は四二〇万ほど減少し平成三十一年度に繰り越
されました。

徐々に安定傾向が認められて来たこの時期を捉え
て、懸案の布の本製作者の育成に力を注いで行け
ばと考えるところです。

事業報告

一 子ども図書館の運営

- ①開館日数 二〇六日
- ②入館者数 一一、二七九人
- ③登録者数 三、四三八名（新規登録者五六七名）
- ④貸出し件数 図書 三〇、七九八冊

（紙芝居 九〇四冊を含む）

- ⑤図書の拡充 拡大写本 三四八冊
- 新規購入 二四三冊
- 紙芝居 一八冊
- 寄贈図書 二七八冊

二 病院文庫の拡充

- ①北大病院文庫 〇冊
- ②KKR（産科） 一八冊（寄贈）
- ③おのだ眼科 一〇冊（寄贈）
- ④天使病院 一五冊（寄贈）
- ⑤札幌市立病院 三三八冊 紙芝居 六〇冊

三 布の本の製作・貸出

- ①製作 布の本 一六三冊
- 材料セット 二二七セット
- 遊具 一三種類

- ②貸出し 布の本 一、七六三点
- 遊具・タペストリー 八四七冊
- テキスト 四一種類
- 材料セット 三六冊
- 布の本 二二三セット
- 遊具 二五四冊

- ④寄贈 北大病院文庫・萩市立萩図書館・小野田眼科 六〇六冊
- ⑤講習会開催 2／9 旭川大学

財産目録

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで (単位 円)

科目	金額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金手元有高	60,652		
普通預金	508,729		
振替貯金	1,102,198		
流動資産合計		1,671,579	
2. 固定資産			
①基本財産	149,254,763		
②その他固定資産	29,179,289		
固定資産合計		178,434,052	
資産合計			180,105,631
II. 負債の部			
未払い金	0		
仮受金	0		
負債の部合計		0	
III. 正味財産	180,105,631	180,105,631	
負債及び正味財産合計			180,105,631

正味財産増減計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで (単位 円)

科目	金額		
I. 増加原因の部			
資産増加額			
賛助会員収入	2,387,100		
寄付金	5,400,177		
助成金収入	1,500,000		
事業収入	2,270,200		
雑収入	863		
受贈益	580,500		
増加額合計		12,138,840	
II. 減少原因の部			
事業費	3,723,587		
管理費	6,297,003		
基本財産建物原価償却額	5,365,662		
その他固定資産原価償却額	926,994		
減少額合計		16,313,246	
当期正味財産減少額			4,174,406
前期正味財産額			184,280,037
期末正味財産合計額			180,105,631

2/9 国際大学

11/17 旭川中央図書館

⑥展示会(多目的ホール開催)

平成30年11月14日～16日

木育ひろば in ふきのとう文庫

平成31年2月24日～27日

移転五周年記念 布の本・拡大写本展

平成31年3月24日～25日

木製ウェルカム看板をつくろう!

⑦外部イベント参加

8/3～8/6 子どもの本ブックフェア

視覚支援学校・学校祭

四 拡大写本の製作

①製本 児童図書・絵本・マンガ 三九九冊

②拡大写本

配本先 中央小学校 ひとみの教室 四八冊

札幌視覚支援学校 七六冊

旭川盲学校 三〇冊

計 一五四冊

貸出し NPO法人「弱視」の子どもたちに 絵本を 一三冊

高知こども図書館 六冊

大阪 弱視児童 山本君 三〇冊

旭川おもちやフェスティバル 八冊

大磯マサエさん 八冊

絵本学会大会 三〇冊

計 九五冊

③新作拡大本

合計 四九タイトル 三九九冊

五 機関誌の発行

七月、十一月、三月に三回、各二五〇〇部ずつ発行

六 子ども催事

おはなし会

年十二回開催二〇八人参加

うたう会

年十三回開催 四三〇人参加

手づくりあそび

年三回開催 六九人参加

人形劇

年一回開催 八〇人参加

奨学生 アンサンブルラテ

年一回開催 六四人参加

世界の楽器展

年一回開催 一五六人参加

小学生のための語りの会

年四回開催 二五人参加

催事合計 三五回

一、〇三二人参加

七 研修会

9月22日 JPIC 読み聞かせ講習会

参加四名 二、二八〇円

八 ふきのとう文庫利用者数

年間目標 二二、三七〇人に対し

実績は二四、七二九人 達成率六三%

(阿久津 記)



新しい拡大写本できました。

🌸 ぼくとお兄ちゃんのビックリ大作戦

まつ みりゅう 作

🌸 ふしぎ駄菓子屋 銭天堂 2 (全3冊)

廣嶋 玲子 作

🌸 チキン! (全3冊)

いとう みく 作

🌸 まえばちゃん

かわしま えつこ 作

🌸 カンガとルー森にくる

A.A. ミルン 作

🌸 イーヨーのたんじょうび

A.A. ミルン 作

🌸 ざんねんないきもの事典 (全4冊)

今泉 忠明 監修

🌸 続 ざんねんないきもの事典 (全4冊)

今泉 忠明 監修

🌸 ひげねずみくん (全2冊)

アン・ホワイトヘッド・ナグダ 作

🌸 にんげんってたいへんだね

フィリップ・レスナー 作

🌸 ソラメバあさんをおいかける

たかどの ほうこ 作

🌸 へんてこな一週間 (全2冊)

山中 恒 作

🌸 れいぞうこのなつやすみ

村上 しいこ 作

🌸 六つの魔法のおはなし

イングリット・ユーベ 作

🌸 ごきげんならいおん

ルイーズ・ファティオ 作

ふきのとう文庫のあゆみ

第二回

ふきのとう文庫は前理事長の故小林静江さんが自宅で始めた子ども文庫から、五十年が経とうとしています。前号から三回にわたり文庫の歴史をたどっています。今回はふきのとう文庫が独自の施設を作ったところから始まります。

七 ふきのとう子ども図書館完成（一九八二年）

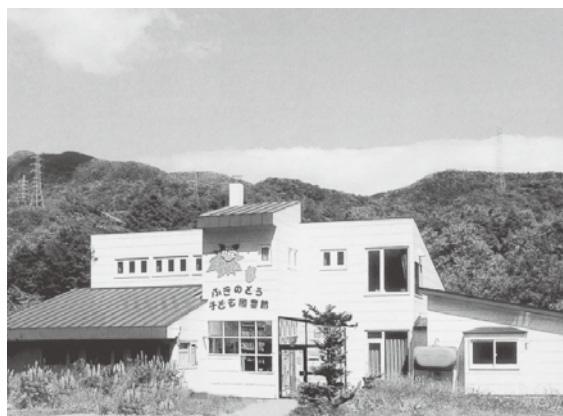
ふきのとう文庫の事務所が前理事長の小林宅から札幌教会内明星館、民間ビルへと転々する中、小さくてもいいから、障がい児の利用を主とした図書館をいつの日か建設したいと考えていた。しかし、財源がほとんどなく、なかなか実現性は乏しかった。そんなとき、一九七九年、近藤キクさんの土地百坪の寄付の申し出があった。その頃、財団法人化して、税制上の優遇措置を受け、社会的にも信用度を増そうとしていたが、法人化するための基本財産の見通しも立っていなかった。そこにこの寄付があり、その年に財団の申請をし、知事認可を受けたところであった。

近藤さんから提供を受けた土地は札幌の中心から車で十分ほどの西区平和にあり、手稲山麓の緑にあふれ、うしろには発寒川の清流が流れているという申し分のない環境であった。寄付された土地を基本財産に組み入れたが、一年以内に建物が建たないと贈与税がかかるということがわかり、理事会でも早急に、意欲的に建設に向かうことになった。

その土地に隣接していた空き地百坪も北海道新

聞福祉振興基金から借り入れ買い足した。建設資金は、三菱財団、北海道共同募金会、札幌の篤志家から各五百万円、全国各地の支援による寄付金、手作りバザーなどで営々と積み立てた資金など総額二千九百万円を背水の陣で用意した。更には若い設計者たちが全くの無報酬で設計し、建設に当たっても利益を度外視した金額で行ってくれた。

かくして六百六十平米の土地に二階建ての木造延床面積二百平米の「ふきのとう子ども図書館」が完成し、一九八二年六月六日開館の運びとなった。一階には読書室、プレイルーム、事務室があり、二階には作業室、収納庫がある。地下鉄琴似駅から市営バスの終点にあり、赤い三角屋根のかわいらしい建物であった。その正面の白壁には協



力者でもあった故坂本直行氏による「ふきのとう」の絵が掲げられていた。

八 ふきのとう子ども図書館の活動

日本で初めての障がい児専門図書館として発足し、開館日は日曜と火曜の週二回、午前十時から午後三時までであった。館内にはエンジ色のカーペットが敷かれ、冬は床暖房も入っていた。壁面には書架が並べられたが、プレイルームのスペースを確保するために本は三千冊程度に絞って置かれた。

一般的な図書館と同じように、閲覧、貸し出しが行われたが、すべてボランティアが対応した。通常の図書の仕事は貸し出し、返却本の整理であったが、「読み聞かせ」や「ブックトーク」（一定のテーマを立てて一定時間内に何冊かの本を複数の聞き手に紹介する）「ストーリーテリング」（声に出して読み上げるだけではなく、場面場面での情景を思浮かべながら、主人公などの性格や思いを移入する）も行った。「布の本」「拡大写本」中心の読み聞かせをしたり、遊具で子どもたちと遊ぶこともした。障がい児の場合、一対一で本を読んだり、遊んだりすることも多かった。

時代が昭和から平成に進んでいくと、社会をとりまく環境に変化が出てきてふきのとう子ども図書館の利用も減少傾向がみられるようになってきた。利用促進への試案も考えられ実行してきた。

ふきのとう子ども図書館は単なる読書施設ではなく、プレイルームを有しており布で出来たデコレーションケーキなどの遊具もあることから、楽しい遊びの場としての役割も果たしていた。障が

いを持つ子どもと地域の子どもの交流の場にした
いということ、一九八三年から月に一回、「手
づくり遊びの会」を実施して、現在に至っている。
これは、身近にある日用品を使っておもちゃを作
り、それで遊ぶというもので、文庫の来館者をは
じめ地域の小学校などにも呼びかけて行ってい
た。

また、「うたう会」や「おはなし会」をはじめ
各種イベントを催して来館者を増していった。

九 資料館・展示室設置

ふきのとう文庫を理解してもらうために、その
理念と歩み、活動内容を示す関係資料や制作物を
展示してみてもうスペースが必要と一九八五年
に資料館をオープンさせた。寄付を受けた図書館
用地と同時に買った隣接した土地である。この土
地に付いていた古い住宅を改装して、図書館には
入りきらなかった布の絵本や遊具、タペストリー
を展示したが、三年後の一九八八年に一階を「共
働作業所ふきのとう」としたため、資料展示は二
階に移動することとなった。狭隘であることや図
書館と別棟であること（冬期間の利用が難しい）
など資料館としての機能は低下していった。新し
い資料館の必要性は誰もが思っていたが、資金繰
りの面で設置は難しかった。その後、新規建設の
目処がたち一九九九年に念願の資料館が渡り廊下
で繋がった棟続きの施設として完成した。しかし、
当初予定していたスペースの確保が難しく、多く
の情報が盛り込まれた資料館とはならず、布の絵
本、遊具、タペストリーを収納する展示室として
使用するにとどまった。

現在の新図書館にも、資料館はなく、今後の課
題となっている。

十 活動を支える人と資金

ひとりの手探りから始まったふきのとう文庫の
活動だったが、今日のように独自の子ども図書館
をもち、障がい児に対する図書館活動のひろがり
をみせるに至った過程には、数え切れないほどの
無償の善意と協力があつたからだと言える。布の
絵本の製作をはじめ、ふきのとう文庫の全活動を
支えているのはボランティアの力である。

活動資金は、賛助会員と寄付によりまかなわれ
ている他、布の絵本の販売、「手づくり布の絵本」
シリーズの出版の印税や、彫刻家佐藤忠良氏、画
家坂本直行氏、森本三郎・光子夫妻、小林金三氏
らの協力による「絵はがき」や「風呂敷」の販売
なども活動資金として貴重な財源となったことも
あつた。一九七七年から北海道共同募金会事業費
助成金は、唯一の継続民間助成金である。

（次号へ）

◆ 新しい製作キットができました

図書館内の販売品コーナーで好評のやさい・く
だものの製作セットを販売します。多くの人から
「作ってみたい」との声を聞いていました。

やさいはだいこん・にんじん・ジャガイモ・ピー
マン・なすび・トマト・タマネギ・キュウリの八
種類、くだものはいちご・さくらんぼ・りんご・
みかん・もも・かき・バナナの七種類が作れるセッ
トです。作り方の説明書と切ってすぐ作れる型紙



が入っています。初めての方や小学生から、楽し
く製作できるセットです。

また、布の本「ばあ！」の製作セットの販売を
開始します。動物の手を動かして「いないいない
ばあ」をして遊ぶ楽しい布の本です。動物の手は
スナップで取り外しができます。

製作セットは販売品コーナーで購入、または
メール・電話・Faxでの注文をお願いします。



書棚より

ご存じの方も大勢いらっしゃると思いますが、プロイスラーという作家についてご紹介したいと思います。私の好きな作家のひとりです。

彼は、一九二三年に現在のチェコ共和国でドイツ人の子として生まれ、戦後の一九四九年からドイツで村の小学校の教師をしながら、童話「小さい水の精」を発表し、児童文学作家とし



て名を挙げ、それからも独特なユーモア溢れた物語を次々と発表し、ドイツ児童文学賞を数回受け、一九七二年には国際アンデルセン賞作家賞（次席）を受けています。そして残念なことに二〇一三年に八十九歳で没しています。

代表作品を紹介します。まず『クラバート』です。

十四才の少年クラバートは夢の声に導かれ、水車場で粉ひき職人の見習いになる。でもそこは魔法使いの親方が支配する死のにおいが漂う脱出不可能な世界だった。職人たちは粉ひきの重労働をしながら、カラスに変身して親方から魔術を習います。そして職人になったクラバートは、仲間の謎の死と、隠された真相を知って、親方への復讐を決意します。

とまあ、こんな内容ですが、友情、生と死、愛と自由といったテーマが描かれ、YA文学として、少しも古くはなく、最後まで読まずにはいられません。

また、宮崎駿もこの作品を好み、『千と千尋の神隠し』制作の時の参考にしたといわれています。

プロイスラーが子どものころ、父親の蔵書の中に『クラバート伝説』があり、強烈に感銘を受けます。それから二十数年後、チェコ語の新しい『クラバート伝説』に出会い、刺激され、

彼は自分のクラバート物語を書こうとしました。しかし、半分書いたところで行きづまってしまします。

この絶望の期間に書かれたのが『大どろぼう ホッツェンプロッツ』です。

これは、読者年齢が『クラバート』より低い子を読める、とても明るく楽しい物語です。

仲良しの少年カスパールとゼッベルが大どろぼう ホッツェンプロッツらと繰り広げる冒険は、読む者を物語の世界へぐんぐん引っ張っていつて放しません。

一九六二年、これが発表されると、翌年にはドイツ児童文学賞の推薦図書に選ばれました。あまりに評判が良くて、一九六九年には『大どろぼう ホッツェンプロッツふたたびあらわる』を発表することになりました。

これで、気分の一新がはかられ、『クラバート』は書き改められ、一九七一年にやっと世に出ることになりました。

その後、一九七三年には『大どろぼう ホッツェンプロッツ三たびあらわる』が発表され、三部作となりました。挿絵もとても素敵です。

いずれも当文庫にありますので、もしまだお読みになっていない方には、お読みになることをお勧めします。

（図書係 杉山）

—— 布の本テキスト・材料セット価格表 ——

材料セットには作り方説明書を同封しています。

テキスト No	布の絵本	テキスト	材 料 セット	テキスト No	布の絵本	テキスト	材 料 セット	テキスト No	布の絵本	テキスト	材 料 セット
11	かくれんぼだあれ	200円	販売終了	16	まる	200円	3320円	遊具	ジャンケンサイコロ	なし	600円
12	MY BOOK	200円	3320円	17	むし	200円	2230円	遊具	やさいセット(8種)	なし	600円
	このいろなあに		3850円		ちいさいおおきい	200円	3030円	遊具	くだものセット(7種)	なし	500円
13	のりもの	200円	1620円		さかな		1720円		どうぶつとなかよし	なし	1600円
	だれのうち		3320円		わっ!	なし	1720円		おいしいね!	なし	1600円
14	Greeting	200円	3030円		ドレミのうた	なし	5020円		おはな	なし	1600円
	おやつ		1720円	新作	ばあ!	なし	2200円		のりたいたな	なし	1600円
15	おかあさん	200円	3030円		どんぐりころころ	なし	4360円		うみのともだち	なし	1600円
	どうぶつ		1820円		おむすびころりん	なし	5560円		とりのなかま	なし	1600円
									どうぶつだいすき	なし	1600円
									とり	なし	1600円

2019年8月1日より、材料等の高とうによる材料セット価格の改定をいたします。



五月二十六日に元札幌交響楽団首席奏者の土田英順さんが多目的ホールで演奏会を行いました。一四〇人を超える入場者の年齢層をとっても気にされ選曲に苦心しながら「鳥の歌」「アヴェマリア」「ぞうさん」「ふしぎなポケット」など十二曲を演奏されました。子ども達に笑顔で話しかけ、動物園の象さんのこと、めだかのことなどを問いかけながら選曲しています。子どもも大人も温かなチェロの本物の音色に、静かに聞き入っていました。一時間余りの演奏会は心に残ることでしよう。土田さんの略歴…一九三七年生まれ。十六歳からチェロをはじめ札幌交響楽団首席奏者を歴任。一九七七年札幌退団後ソリストとして活動

土田英順チェロコンサート

あとがき

図書館の入館者数が増えつつあった。巻頭でも理事長が書いているように新築移転後の図書館には北海道からの補助金の一部入っていて、入館者の目標人数を課せられていた。それを達成するという使命があった。その期間が五年間であり、今回までその目標値をなんとかクリアしながら、平成三十一年三月で報告は終了した。多くの人に子ども図書館があることを知ってもらい、来館して貰いたいことは今後も努力するが、量もさることながら図書館としての質の向上を目指すことにも力が注げるようになった。様々な工夫をしながら、その成果をこの文庫だよりに掲載されるようにみんなで頑張っていくたい。(野田 記)

編集 公益財団法人ふきのとう文庫
代表理事 高倉 嗣 昌

〒060-0006 札幌市中央区北 6 条西12丁目 8
☎ 011-222-4839 FAX 011-222-4800
http://www.fukinotou.org
E-mail:fukinotoubunko@ceres.ocn.ne.jp
令和元年7月10日 発行
毎月10日発行一部100円(維持会費に含む)

昭和48年1月13日 第3種郵便物承認
HSK 通巻568号
発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会
細川 久美子

郵便振替=02720-3-2300 銀行口座=北洋銀行本店営業部普通預金 0035764 公益財団法人ふきのとう文庫

この機関誌は、「北海道共同募金会の配分」により刊行しています。
維持会員・寄付者のみなさん、ありがとうございました。